

# 労働図書館新着情報

## 今月の10冊

<p>①五石敬路編『東アジアにおける都市の高齢化問題』国際書院(199頁,A5判) 本書は、急速な高齢化に伴う介護や税制の問題、所得分配への影響などに対処する中国、韓国の実情を紹介している。これらの問題で日本を追いつける韓国では、定年延長や年金支給時期の繰り下げの問題に直面していると指摘。上海市では「計画出産」政策、低い死亡率を背景に、中国の先頭を切って少子高齢化が進展していると述べている。</p>	<p>⑥大内伸哉他著『法と経済で読みとく雇用の世界』有斐閣(xi+320頁,四六判) タイトル通り、法学と経済学の2つの視点から雇用問題を分析している。例えば労働時間。法律では、長時間労働を抑制するために割増賃金が規定されているが、経済学的には、長時間労働による所得増を求めて残業が増える「代替効果」を誘発する可能性があるという。13のテーマがストーリー仕立ての読みやすい内容になっている。</p>
<p>②M・バーチェル他著『最高の職場』ミネルヴァ書房(xxxii+267頁+19頁,四六判) 全米で最も働きがいのある会社ベスト100に選ばれる職場にはどのような共通点があるのだろうか。本書はその解答として、「信用」「尊敬」「公正」「誇り」「連帯感」の5つの要素を挙げ、多数のケーススタディを基に最高の職場がいかにか創られるかを探った。全員に対する公正な報酬を求めるなどいかにも米国流の分析となっている。</p>	<p>⑦渡邊幸義著『雇用創造革命』ダイヤモンド社(247頁,四六判) 著者は、2020年には1,000人の障害者を雇用し、月給25万円を支給すると宣言して注目を集めた。雇用弱者に働く場を提供することを信念とし、「特例子会社では障害者も全員スーツ姿で出勤する」「起業カフェから障害者のバリスタ世界を輩出する」などのユニークな経営スタイルが有名。履歴書を見ない採用方法も示唆に富む。</p>
<p>③ロベール・カステル著『社会問題の変容』ナカニシヤ出版(xxix+566頁+xxxii,A5判) 社会学者であり、歴史学者でもある著者がフランス社会を14世紀まで遡り、賃金労働者の歴史を分析する。今後の同国のあり方を提示する最終章では「希少な『労働』とそれに伴う社会的権利・利益をワークシェアリングで国民に再分配する」ことを提唱し、完全雇用に代わる政策として重視する。労働と雇用を人類史的に追求した書。</p>	<p>⑧女性労働問題研究会『女性労働研究 震災と女性労働』青木書店(192頁,A5判) 今年度の『女性労働研究』は「被災地が問いかける女性労働」を特集。東日本大震災では、仕事を求める女性が多いにもかかわらず、求人はいずれも男性向けの肉体労働であることや、介護と仕事の二重の負担に苦しむ女性など特有の問題が明らかになった。国際NGOの支援を受けて、女性支援の団体が誕生した事例も紹介している。</p>
<p>④徳住堅治著『解雇・退職』中央経済社(3+11+255頁,A5判) 労働者にとって死活問題である「解雇」。本書は、約40年間、一貫して労働側の立場から解雇事件に対応してきた弁護士である著者が、退職勧奨や解雇通告を受けてから解決に至るまでに生じる問題点や注意点を挙げる。具体的な解決方法が示されるほか、600件以上の判例が掲載されるなど解雇を実践的に学ぶには格好の1冊。</p>	<p>⑨小崎敏男他編著『少子化と若者の就業行動』原書房(ix+226頁,A5判) 本書は、人口減少下における若者の就業行動、婚姻と出生率の関係を分析している。若者の就業行動が現在の人口減少にどの程度関わっているかを明らかにしたうえで、教育現場でのキャリア教育や消費行動、政府の若者向け雇用政策にも言及。若者の就業・雇用状態の悪化は婚姻率を低下させ、出生率の低下を招いていると述べている。</p>
<p>⑤林弘子著『労働法』法律文化社(xiv+351頁,A5判) 単に条文の解釈を並べ立てるのではなく、労働法の沿革から最新の労働問題に関するトピックまでをわかりやすく紹介。「女性労働問題」ではパパ・ママ育休プラス制度、「非正規労働者問題」では偽装請負問題、「労働紛争の多様化」では裁判外紛争解決手続(ADR)を解説。1ページに収まるコンパクトな重要判例も有用である。</p>	<p>⑩寿山泰二著『エンプロイアビリティにみる大学生のキャリア発達論』金子書房(iv+225頁,A5判) 副題に「新時代の大学キャリア教育のあり方」とある。就職できずに大学を卒業する学生や留年して就職を1年先送りする学生が増えるなか、大学側の就職指導だけでは対応できない問題も少なくない。本書は、学生のエンプロイアビリティ(雇用される能力)をいかに引き上げるかを多様な角度から考察し、実践的な内容になっている。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2012年3-4月労働図書館受け入れ)

①野口均著『会社員負けない生き方』平凡社(236頁, B6判)	②向井蘭著『社長は労働法をこう使い!』ダイヤモンド社(248頁, A5判)
②石川真作他著『周縁から照射するEU社会』世界思想社(v+272頁, A5判)	②木村進著『自分で切り開くキャリア・デザイン』中央経済社(ii+ix+219頁, A5判)
③みずほ総合研究所他著『グループ内組織再編』東洋経済新報社(226頁, A5判)	②竹中恵美子著『女性の賃金問題とジェンダー』明石書店(352頁, A5判)
④野中郁次郎他著『知識創造経営のプリンシプル』東洋経済新報社(349頁, A5判)	②佐久間大輔著『精神疾患・過労死』中央経済社(281頁, A5判)
④D・テュルバン他著『なぜ、日本企業は「グローバル化」でつまづくのか』日本経済新聞出版社(211頁, A5判)	②佐藤正弘著『就活のための自分マーケティング』中央経済社(iv+iii+151頁, A5判)
⑥グラントソントン太陽ASG税理士法人著『国境なき人事』税務経理協会(182頁, B5判)	②瓜生原葉子著『医療の組織イノベーション』中央経済社(x+vi+313頁, A5判)
⑦大久保幸夫著『30歳から成長する!「基礎力」の磨き方』PHP研究所(206頁, B6判)	②木下幹彌著『モノづくりの経営思想』東洋経済新報社(xiii+324頁, A5判)
⑧有田馬著『入門季節調整』東洋経済新報社(255頁, A5判)	②ローナ・フィリン他著『現場安全の技術』海文堂出版(vii+417頁, A5判)
⑨中谷彰宏著『会社で自由に生きる法』日本経済新聞出版社(219頁, A5版)	②井上忠著『質の一流企業への挑戦』ダイヤモンド社(251頁, A5判)
⑨村田毅之著『労働法の原点』晃洋書房(viii+228頁, A5判)	③東淵則之他著『地域と事業再生』松山大学地域研究センター(iv+208頁, A5判)

### 労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書112,000冊、洋書28,000冊、和洋の製本雑誌21,000冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(460種)、洋雑誌(170種)、紀要(560種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間: 9:30~17:00

休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659

利用資格: どなたでも自由に利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています